

## 平成28年度 第3回南部町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成29年2月1日(水) 午前10時00分 開会  
午前11時40分 閉会
- 2 開催場所 南部町役場分庁舎 2階 201会議室
- 3 出席者  
・町長 佐野 和広      ・教育長 渡辺 拓雄      ・教育長職務代理者 芦澤 和彦  
・教育委員 入月 一巳      ・教育委員 四條 勉      ・教育委員 望月 恵美
- 4 事務局等の出席者  
町長部局 総務課長 望月哲也  
教育委員会事務局  
学校教育課長 近藤 勝      生涯学習課長 梶原 猛  
学校教育課主幹 市川 隆      学校教育課主査 佐野憲一
- 5 協議事項  
(1) 教育大綱の見直しについて  
(2) 教育懇談会のこれからについて  
(3) その他
- 6 議事経過の概要  
次のとおり

### 1 開会 学校教育課長

### 2 町長あいさつ

(要旨) 行政では先日予算査定が終了しました。昨年は総予算額約59億円弱でしたが、今年は55億から56億の間になるということで、約3億円総予算額を下げるようになりました。下がった要因としては道の駅のことがあります。そして私が各課に話したのは、色々なところで見直しを図るということです。実際、以前から学校教育課・生涯学習課の分野だけは下げないできた訳ですが、今回当初の予算より下げました。また、以前から力を入れてきた交通防災関係ですが、来年度予算では各戸に火災防止遮断機、各地区に防災無線という大規模な施策を2つ計上してきた訳ですが、1つにしてもらうことにしました。そんなことで、学校教育・生涯学習も従来とは違う形になってきていますが、ご理解をしていただきたいと思います。

今年の年頭あいさつで職員にも言いましたが、昨年まで一生懸命種を蒔いてまいりました。今年はそれを是非実のあるものにしたい。このことに重点を置いてやっに行こうと思っています。先日出てきたタブレットを活用した学校ICT事業ですが、これも大きな予算が必要となります。それは南部町が教育に力を入れていくということで通しましたが、是非結果を出してもらいたいと思います。そこを私は強調しておきたいです。図書館に関しても、アルカディア文化館に毎年蔵書として3,000冊を購入していました。富河の図書館にも1,500冊。併せると4,

500冊。これは毎年ですから凄い数字ですね。これをなんとか見直してほしいということで、従来より減らしました。本当はしたくなかった訳ですが。そうは言ってもまだまだ相当数購入しています。是非今年は学校教育・生涯学習ともに大いにこれを活用していただきたい。そのためには各学校、町民にもっともっと周知していただき、結果を出していただきたい。そしてそれが良いということになれば、認められれば、さらに力を入れていこうと思っております。そんなことで、今年1年間は役所の全持場で結果にこだわっていきます。

さて本題の総合教育会議ですが、1番のテーマは統合に向けての話ではないかと思えます。私も年頭のあいさつの中で話したように、皆さんの話し合い等を受けて29年中に結論を出したいと考えております。これは色々なことを総合的な視点に立って考えてみれば、いずれにしても現状のままでは立ち行かないであろうと思えます。その結果前倒しということもあるかもしれません。そういう意味でも今日は突っ込んだ話をしていただきたいと思えます。

今各地方自治体は地方創生で人口減の対策として、資源・特産物を使ってなんとかしようとしております。例えば今日の新聞には、身延町が廃校になりました元原小学校を曙大豆の製造場所にするということが出ておりました。それはそれで良いことだと思いますが、あくまでこの南部町にはいろんな資源がある訳ではありません。私が何を訴えたいかという、教育・文化は絶対に負けないということ。これは何としても貫きたいと思っております。それだけに今年色々やることに對して結果を出していただいて、そしてこの南部町で育った子どもたちが大きく羽ばたいていてもらいたい。それが南部町の大きな特徴になるのではないかと思います。

今日はこの後、議会の全員協議会があります。その中の大きなテーマは子宮頸がんのことだと思います。南部町は今まで中学校3年生まで医療費は無料ということでやってまいりました。今回このことについては予算付けをしまして、18歳まで引き上げようと考えております。これには、数百万円かかる訳です。そんなことでも色々な方面にしわ寄せもいくと思えます。少し蛇足になりましたが、今日はよろしく申し上げます。

### 3 教育長あいさつ

(要旨) 今回で28年度3回目の会議となりました。本日は2つの議題を用意しています。1つは教育大綱の見直し。もう1つは教育懇談会の今後についてです。それぞれ文書上の確認ということになりますが、この会議では確認に至るまでの過程を大事にしたいと思えますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思えます。本日は、よろしく申し上げます。

### 4 第2回総合教育会議の協議について

事務局が第2回の協議事項について説明。

### 5 議事

## (1) 教育大綱の見直しについて

(事務局) 見直しについて説明。

(教育長) 南部町教育大綱は平成27年の1年間をかけた、皆さまから貴重なご意見をいただき完成をしました。その大綱の留意事項に、内容について法令等が改正された場合にはその法令に見合うような変更、また地域の現状が変化していけばそれに見合うような内容の変更をするという規定があります。今年度第1回目の総合教育会議の折に、大綱の見直しについて2点ご指摘をいただきました。1つは、生涯学習・生涯スポーツの取組は非常に多岐にわたっている中で、それに見合うような項目を付け加えたり、取組の位置づけを大綱の中で明確にした方が良いというご指摘がございました。もう1つは、家計が苦しい中で、日々の食べ物に困っている家が南部町にも若干あり、そういう家庭の子供たちの学ぶ機会を保障していく必要があるわけですが、その辺のことで取り扱う項目がないというご指摘がありました。まず、1つめについて生涯学習・生涯スポーツの事務局から説明願います。

(四條委員) 2点よろしいですか。1つは施策(1)の内容のことですが、社会体育施設・社会教育施設、生涯学習・生涯スポーツの中心拠点ということで書かれていますが、社会教育の関係と生涯学習の関係の文言が混在しています。県でも社会教育課と生涯学習の推進課とあります。この辺の見解をもう少し整理できたらと思います。

それから施策(2)のところのスポーツ推進委員のところ、これが新たに出てきたということは、何か推進委員を活用しての計画がすでにあるということでしょうか。

(梶原課長) まず1つめの関係ですが、過去には生涯学習課・生涯スポーツ課と2つの課があった訳ですが、生涯学習にもスポーツは含まれます。当然社会教育にもスポーツは含まれます。ご指摘の通り、この文章はあまり整然としたものとは言えませんので、もう少し整理して出したいと思います。

もう1つスポーツ推進委員の関係ですけれども、特に新たな計画という訳ではありません。既にスポーツ推進委員には地域スポーツということで体育祭、駅伝、トランポリン、スポーツフェスタ等多岐にわたり活躍していただいております。町からの委嘱により活動していただいております、この力強い組織と連携をする中で、よりスポーツの底上げに繋がればという思いでここに明記しました。

(教育長) 施策(1)の文言については、生涯学習の根本の考え方に見合ったようなものに整理してもらおうということで、課長にはもう1度見直しをお願いします。

スポーツ推進委員については特に29年度に新しい計画がある訳ではないけれども、更なる活発な活動のために盛り込んだということです。

(四條委員) スポーツ推進員については、すでにかかなりの活動をしている実態があります。しかし、それは体の部分での活動が大半であります。昔体育指導員と呼ばれていた時代に、教育委員会事務局のお手伝いだけではなく、運営の構想を提案することもありました。多くの推進員の英知を発揮して、南部町生涯スポーツの企画運営にもっと携わっていても良いのではないかと私は考えます。そういう方向で推進員を活用するという意味を含め、この文言を入れて行くというのは良いことだと思います。

(教育長) スポーツ推進員の活用ということですが、推進員の先進地研修等はどうなってい

ますか。

(梶原課長) 来年度2年任期の2年目ということで、研修を行う予定です。県外で色々なスポーツを研修していただいて、南部町の生涯スポーツの推進に役立てるという狙いです。今のご意見も踏まえながら、推進員には話をしていきたいと思います。

それと併せて平成29年度、生涯学習フェスティバル・アルカディアスポーツフェスタ・図書館祭りの3つを一本にして、「アルカディアスポーツフェスタ2017」として開催しようと計画しています。アルカディア総合公園の体育館、文化館、野球場の3会場を使用し、体育館では開会行事、表彰、講演会又はコンサート、文化館では図書館祭り、野球場では芝生の完成を見込んでおりますので、そこでスポーツ鬼ごっこをやりたいと思っています。その際にはスポーツ推進員の皆さんにも色々な意見をもらう中で進めていきたいと考えています。

(教育長) 特に南部町はスポーツ推進員が色々な場面で活躍されています。さらに四條委員のご指摘のとおり、企画にも参加していただきながら連携をしていって、例えば「アルカディアスポーツフェスタ2017」についても協力をしていただくのも良いのではないかと思います。

基本的には生涯学習・生涯スポーツを盛り立てて、そこにあるように色々なライフスタイルに対応して、充実した生きがいを町民の皆さんに持っていただくための大綱の見直しであるということを御理解下さい。

(町長) 役場行政の中には確かに色々なものがあります。これを人数が限られている中で実施するのは、毎回毎回大変なところがあります。特に南部町の職員は夏に火祭りがありまして、その前後というのは休めないですね。それで終わって9月に休めるかというところではないという状況です。これは監査委員からも指摘されています。沢山ある行事は1つにして、その代わりにその1つを大いに盛り上げるという方向が良いと思います。そういう形になれば、従来のものとはまた違った形になっていくと思います。

それとスポーツセンターのことについてですが、私の家内も週2回程利用しています。非常に良いと言っていました。あれだけの施設ですので、たくさんの方が知れば来られると思います。もっともっと周知に力を入れていただきたいと思います。

(教育長) 発信ということにも尽力していただきたいと思います。

(町長) 南部町は他町と比較しても良い取組が沢山あると思います。ただ、それを知らない人が多いこと。そこで少し前に総務課長と相談しましたが、毎月発行している広報の中でページを割いて大々的にそういった取組を取り上げることはよいと思います。よく放送を使ったりしますが、聞き逃してしまうこともあると思います。視覚に訴えるという意味でも、是非広報で取り上げていきたいと思います。

(教育長) その辺について、総務課長どうでしょうか。

(総務課長) そのことについては予算査定の中でも伺いました。どのような形で発信していくかについては、各課と連携をとりながらやっていきたいと思います。

(教育長) 是非町民の皆さんに良い所を伝えていただきたい。また先ほどのアルカディアスポーツフェスタの成果発信についても、積極的にするようにしてください。

生涯学習・生涯スポーツの取組方針は、活力にあふれ生涯に渡り自ら学ぶ人づくりと

ということで、学びの中には体を使って学ぶということも含まれます。これはスポーツ、文化を通して生涯学習・生涯スポーツの基本方針であることです。何かこれに関連したご意見があれば出していただきたいと思います。

(芦澤委員) 施策3に『発信』という言葉があります。先ほどから言われておりますが、これだけの施設のある所はありませんので、これからどう発信していくのかということがポイントになっていくと思います。スポーツの方も、今年も駅伝・マラソン大会には大勢の参加者がありましたし、文化の方でもふるさと教育というものに取り組んでおります。南部町は文化的には、近藤浩一路さんとか色々あると思います。そういうものを活用して、地道な活動になるかもしれませんが、やっていくことが大切かなと思います。

(望月委員) 私も同じように発信というのが大切だと思います。お金をかけずに多くの人に知ってもらうというのは難しい面もあろうかと思いますが、先ほど芦澤委員も言われたとおり地道な活動が必要ではないかと思います。

(入月委員) この南部町の文化というのは凄いです。色々な講座が頻繁に開催されています。生涯学習課にしても、ぴゅあ峡南にしても、本当に色々な活動をしています。そういうものを発信する時には、各々単独をするのではなく、ぴゅあ峡南とも連携して目に見える形で発信をした方が、住民には浸透しやすいのではないかと思います。先ほどまでスポーツのことが出ていましたが、その双璧はやはり文化であろうと思います。南部町にはそれなりの歴史もありますし、良いものも色々あります。それを主導していくのは文化協会ですね。各地区の住民の間に入って活動もしています。先日これからのことについてアンケートも取っていました。そういう結果を活用して文化協会の体系や意義をもっと整理していけば、住民にとっても、協会の役員にとっても良いことだと最近感じています。

もう1つは、施策1ですけれども、「地域総がかりで支える青少年の健全育成」。ここの「あいさつ運動」です。ここを本気で強化していければ、あいさつ日本一の町を目指して取り組むことができます。子どもだけではなく地域も巻き込んで推進していければ、本当に素晴らしいものになろうかと思います。

(教育長) 文化協会のことがありますが、現在生涯学習課でもそのことで苦勞している訳ですが、その辺生涯学習課長どうでしょうか。

(生涯学習課長) 町が合併して14年、その中で1つになっていないのは文化協会だけです。そこで南部、富沢の役員に集まってもらい、何とか1つにしてもらいたいということで話し合ってもらいました。両地区の相違点というのは、南部地区には各区に支部組織があり、富沢地区には支部組織はありません。会費は、南部地区は全戸から、富沢地区は専門部に所属している人から集めています。大きく違うのは組織と会費の2点ですが、このことについて住民へのアンケートを実施し、文化祭の時に回収して現在集計中です。この結果を踏まえて、役員を選出方法、会費の徴収方法を現在の役員に諮るつもりですが、この問題は非常にデリケートな側面もございますので慎重に話を運ぶつもりでおります。

(町長) この問題については、文化・教育の大事な案件なので、大いに行政に係わるべきだと思います。会費徴収がネックだと思いますが、大事な団体なので、運営費を町から

補助してでも話を前に進めていくべきだと思います。今回文化祭展示を南部・富沢合同でおこないましたが、非常に評判が良かったじゃないですか。そういう方向で検討してみてください。

(教育長) かなり手を焼いていたこの問題ですが、今の町長の発言で少し光が差し込んだ思いがいたしました。この総合教育会議の良い面を出していただいてありがとうございます。

次に「地域総がかりで支える青少年の健全育成」ということで、家計が厳しい中でも学習機会を保障する一項を入れました。学校教育課長補足ありますか。

(学校教育課長) 現在町では国・県のものを含めまして、子どもが生まれてから高校卒業までの支援として40数件の施策があります。多くは福祉保健課、子育て支援課のもの、それから直接県から届けている手当等もございます。学校教育課からは要保護、準要保護生徒への援助費、特別支援学級就学援助費等があります。

(四條委員) 私が居住している地区に対象となるような中学生がいます。この子本人は大変優秀でまじめな訳ですが、保護者に自覚が足りないような所があります。近い将来高校進学という年齢になりますが、このままでは経済的な理由で進学、通学できないのではと危惧している訳です。過去には保育所へ入所させる時に、福祉保健課保健師の指導により、保護者が就職したという経緯もありました。これから高校へ進学する際に保護者への指導と言いますか、対応はどの課が主導でおこなわれていくことになりますか。

(教育長) その子につきましては、教育委員会でも大変心配をしております。南部中学校に確認しましたら、勉強もできるし部活も積極的にがんばる模範生であるということでした。ただこれから進路選択を迎えるまでの時間を考えますと、喫緊の課題です。今回大綱へこのような場合の対策として一項を入れた訳ですが、具体的な対策は難しい面が多々あります。

(望月委員) 児童相談所への相談等は今までされてきましたか。

(学校教育課長) 昨年、南部中学校において、教育事務所ソーシャルワーカー、校長、学校教育課、子育て支援課で協議しました。その時には経過を観察していきましょうということでした。

(市川主幹) 日本にはセーフティネットとして生活保護というのがあります。そして、生活保護に当たらないぎりぎりの収入がありながら貧困であるという児童・生徒というのは、多くの場合保護者に金銭の管理能力がないということがあります。このことについて福祉保健課は一生涯係わりを持ち続けると思いますが、子育て支援課は健全な育成ということで係わり、学校教育課は義務教育ということで係わっていくということになるかと思えます。

(芦澤委員) 今協議されていることは具体的な話なのでよく分かる課題だと思います。しかし、これから他にもこのような事例が出てきた時のために、最初に気付くのは現場の教師かもしれません。すぐに情報を共有できる体制づくりというのが大切になってくると思えます。取り返しのつかない事例、あの時手を差し伸べられていれば、というような後悔する事例を作らないためにも必要であると思えます。

先ほどの中学生の事例も難しい側面は多々ありますが、これから進路選択の時期を迎

えるにあたり、現実問題としてそこから逃げられない部分もあります。中学校とか色々なところと連携して取り組んでいくことになると思います。

(教育長) 現実に少し心配だなあという家庭が各小学校に散見できます。ただ実際には国はもちろん、南部町も子育てに手厚いですよね。最終的には保護者の自覚、責任になる訳ですがその辺が難しいです。

(芦澤委員) 奨学金ひとつ取ってみても非常に手厚いです。ただ、奨学金もローンには変わりありませんが。これからは利用する方は増えていくのではないですかね。

(町長) 奨学金制度がありますが、南部町は利用する人が少ないです。枠は設けてあるので是非有効活用していただきたい。

(入月委員) 今の話しではありませんが、気になったのがICTの関係です。町長も結果を出してほしいという強い思いを述べられていました。今、ICTの関係が大綱の施策5にきていますが、施策1に「一人一人を大切にされた創造性や個性の伸長…」とあります。そこにICTの文言を持ってきて、各学校にも強く意識してもらって推進していくということでどうでしょうか。それと「効果的な活用について研究します」ではなくて、「効果的に活用を図っていきます」にしたら良いのではないかと思います。

(教育長) ICTについては研究段階ではなくて、実際に運用する段階であるということで、大綱の文言をそれに沿ったものにしたらどうかというご指摘でした。そのことにつきましても、ご指摘を踏まえまして検討していきたいと思います。

(教育長) ここのまとめとしては、学習の機会を阻害されることがないように取組をするという文言を大綱の中へ入れるということ。背景として、こういうものを盛り込むからには多くの関係機関で情報を共有し、早めの対応をすること。行政も深く係わりますので、貧困の度合いによっては特例の対応も必要であること。このようなことを確認して次の項目に移りたいと思います。

## (2) 教育懇談会のこれからについて

(事務局) これからの計画について説明。

(教育長) 学校教育課の取組として、教育懇談会の予定を10月までお手元の計画のように示していただきました。その中の取組のひとつとして、4月に「小学校のこと」という冊子を全戸配布しますが、この狙いとしては地域住民に適正規模の問題に関心を持ってもらいたい、関心を高めたいということがあります。そこで平成29年10月に全体懇談会を予定していますが、その時にまだまだ関心が低いような状態では開催する意味もあまりありませんので、そういった意味で、まずは、この冊子配布ということを予定しました。全体をとおして何かご意見ありますか。

(町長) この予定表の5月6月の区単位の説明会とありますが、これはとても大変なことです。私自身最初町長になった時に同様に実施した訳ですが、24地区まわるのは本当に大変でした。もう少し絞ってやらないと皆さん参ってしまいますよ。私は3ヶ月かかりましたし、会議時間も意見に火がつけば長くなりますし、そのまとめもまた大変です。確かに色々な意見が出ますが、とんでもないことも言われる訳です。例えば個人的な意見が出て、それを反映できなければ、なんでなんだということで反発されかねませんから。ですから、ある程度大きな単位で実施していくということで私は良いと思いますよ。

皆さんのためにも、再考していただきたい。

(教育長) 膝詰で話し合えたらという思いではありますが、町長の気遣いはありがたいことだと思います。課長はその辺どうですか。

(学校教育課長) 私も以前、地震マップ作成時に全区をまわりましたので、町長のおっしゃることは分かります。旧村単位ぐらいだと思いますが、細かな意見を拾うのであれば選挙の投票区単位ぐらいが望ましいのかとは個人的に思います。

(教育長) 数的に多い訳ですが、きめ細かく話し合うということが大事かなと思います。

(四條委員) 答申が検討委員会から出て、答申に沿って町長への具申もなされました。検討委員会の段階では平成33年までの子どもの数が示されていました。しかしですね、地区懇談会の中で平成47年までの予測の話しがございまして、検討委員会もそこまでの数は把握していなかった訳ですね。そういう中で今の手順を踏んでいけば5年後に万沢・富河が、10年後に栄・睦合が、ということですが、その後おそらく生まれてくる子どもの数を考えますと、2校の小学校が1校にということが予想されます。度々の統合という動きになることが果たしてどうですか。当然、答申に沿っての流れということで教育長の見解は伺っておりますが、この辺の見直しというのがあるのかどうかということが私は気になります。ここ20年の間で3回の統合が予想されるということなら、検討委員会の答申があるにせよ、ここでもう1回再考する方が良いのではと感じます。

(町長) 私も今月南部町の将来を話し合うという機会がありまして、その席上統合の話が出ました。そこでも1つにするという意見がありました。毎年同学年が30名程度の出生ですから、このことをどうするのかと。私はこの統合については、今年中に結論、方向付けをしますと申し上げました。

(望月委員) 万沢の方からは、万沢小学校がどんなに少数になっても存続だという声を聞きますが、逆に1つにするという意見もあるのでしょうか。

(町長) そういう声もあります。入月委員もご存知だと思いますが、我々にしてみれば母校ですから、それは存続させたいという思いはあります。しかし、現状を客観的に考えてみれば、そんなに悠長なことも言ってはられないという流れになってきていると思います。

(望月委員) 懇談会の時に稲子小や市川東小の例を出されてました。稲子小は10人ぐらいで1学年1人や0というような学校です。私は個人的に1学年1人という教育環境に疑問を持っていて統廃合に賛成していますが、果たして万沢の人達はそういう状況でも存続したいという人や、また1つにしても良いという人がどのくらいいるのでしょうか。

(町長) この出生推計を見たならば1つにしたいと考える人が出てくるかもしれません。しかし、それは結論としては早すぎます。

(教育長) 望月委員が言われたように、ある程度の限度の人数を設定して存続を求めているのか、あるいは最後の1人までということなのかという突き詰めた話を当該地区の皆さんとはまだしていません。そういう意味でも細かい単位で膝を突き合わせて、まあ色々言われるかもしれませんが私達の思いも伝えていきたいと思います。確かに47年までの推計を見ますと南部町全体で1つですね。ただ、答申という行政上大変重い縛りを私達は感じております。将来1つになるとしても、段階的に答申に沿って進めていくとい

うのが教育長としての私の考えです。これについては、地元の思いということで、入月委員どうでしょうか。

(入月委員) 説明冊子を配布して、地区への説明、そして全体の懇談会という流れが示されておりますが、先ほど町長のお話にもありましたが区単位の説明というのは私も大変かなと思いますので、また考えていただきたい。

ひとつ具申書についてですが、ここで使われている意識調査の結果ですが、このアンケートの内容というのは極めて一般的な質問でしたね。具体的に万沢・富河の統合とか、栄・睦合の統合についてはどう思いますか、ではありませんでした。今後の予定でいくと7月におこなうアンケートがこの統廃合問題の1番のポイントになってくると思います。まさしく民意に沿うと言いますか、理解を得るという上で大変な意味を持つてくると思います。教育委員会で各校PTA、旧村単位の説明会をしていただきましたが、先ほどの1つにするという意見もそうですが、最近になって住民の考え方は確実に変化してきていると感じております。初回の意識調査とは違った方向の結果が出る可能性もあると思います。そういうことを考えた時に私達としては、アンケート結果によっては白紙撤回をすとか、それとも強引に進めるのかという心づもりも必要になってくるのかなと思います。

(教育長) 答申の中には「住民の理解を十分に得た上で進める」ということがありますので、アンケート結果が理解を十分得たとは言えないということであれば、やはりなんらかの再考をしていく必要があると思います。当然設置者である町長と相談しながらということにはなりますが、基本は住民の十分な理解を得ながらということになります。入月委員がご指摘された平成26年の意識調査については、他方から同様のご指摘もいただいているところです。そういう意味でも、このアンケート結果はあくまで一般論的な質問ということが分かるような注釈が必要かなと思います。その辺を事務局と相談していきたいと思います。

これからの懇談会ということで区単位の説明について、いくつかご意見をいただきました。今日伺った意見を参考にしてさらに詰めていく訳ですが、概ねの流れとしてはこの予定表のとおりでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

### (3) その他

(教育長) その他ということで皆さんの方から何かありますか。

(町長) 新年度保育園の統合についても保護者との話を進めます。色々な意見が出るとはありますが、ある時になれば決断を下さなければと思っております。そして1つにできた時には、南部町の教育というものに更に力を入れてもっと充実した教育環境をつくりを考えております。

(教育長) 他になければ時間のこともありますので、これで閉じさせていただきたいと思えます。ありがとうございました。

## 6 閉会 四條委員

(要旨) 私達の意見も言わせていただきましたし、町長からも個人的な見解も含めてご意見をいただきましてありがとうございました。これから年度末、年度始めにかけて私達の出番もいくつかあるようですが、健康に注意してがんばっていきます。それではこれを

もちまして第3回総合教育会議を閉じたいと思います。お疲れさまでした。